

2010年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 海外史料領域 <u>複合史料領域</u>
2.申請課題名 関連史料の収集による長篠合戦の立体的復元
3.申請者 中世史料部門・助教・金子拓
4.所内共同研究者 中世史料部門・准教授・鴨川達夫・渡邊正男／同部門・助教黒嶋敏・須田牧子 古代史料部門・助教・藤原重雄 近世史料部門・教授・保谷徹／同助教・及川亘
5.希望する研究期間 2010 年度～ 2015 年度 （ 6 年間）
6.課題の概要(400字程度)（この項は広報等に利用・掲載することがあります） 天正3年（1575）5月に織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼軍が戦った長篠合戦は、本格的に鉄炮を用いた最初の合戦として日本史上有名である。この戦いに関する史料については、文書のほか、合戦に参加した武士たちの覚書、系譜史料、軍記物語などの文字史料にとどまらず、合戦屏風・合戦図などの画像史料も豊富に残されている。近年ではこれらの史料にもとづいた研究も少なからず発表され、また、長篠合戦において旧来定説となっていた信長・家康軍による鉄炮の「三段撃ち」が実際におこなわれたかどうかをめぐる、大きな論争の問題にもなった。本共同研究は、これら合戦関係史料についてジャンルを問わず広く収集し、相互に関連づけながら検討することによって、長篠合戦の具体像を明らかにしようとするものである。
7.研究の目的(400字程度) 長篠合戦を研究するにあたり、合戦に至る（時間的）経緯や両軍の布陣地などの地理的情報の把握は必要不可欠である。これらの点は、文書・記録をはじめとした良質な史料を綿密に解読することで進めていきたい。いっぽうで覚書・系譜史料、合戦屏風などは、合戦参加当事者もしくはその子孫により、何らかの意図をもって作成されたものである。史料作成の背後にある意図（史料作成の動機）を正確につかむことで、個々の史料の史料的価値を判断し、合戦像の復元に活かしたい。この作業をとおして、後世の人々が「長篠合戦」という歴史的出来事に何を求めていたのか、どのように読み解こうとしていたのかがわかるだろう。これら合戦像の復元を試みることにより、自ずと史料的性格も明らかになると思われるので、その総合的成果として、合戦関係史料集を『大日本史料』の一冊として刊行することを最終的な目的とする。

8. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400字程度)

文献史料については、織田信長・徳川家康、武田氏に関心のある研究者が参加することで、複眼的な視点での研究が可能となる。また、『信長記』などの記録、『長篠軍記』などの軍記物語については、歴史学・国文学双方の分野の研究者により、史料的価値や文学的価値、史実と物語の関係などの諸点が明らかになるだろう。画像史料については、美術史学の専門研究者の参加により、文献との関連性が追究できるとともに、諸本の系統研究、屏風に描かれた人物・動物・武具などの考証・同定もやりやすくなる。これにくわえ、武具や軍事史の研究者も共同研究者の一員になることで、画像史料のより緻密な分析が可能になる。多様な分野の研究者が参加し、一つの合戦に関わる多種多様な史料を共同で検討することにより、戦国期合戦研究の新たな方向性を見いだすことができるだろう。

9. 研究の実施計画

- ・長篠合戦に関係する記録・軍記物語類の所在調査をおこない、必要に応じて原本調査と写真撮影をする。複数の本がある記録については系統分類について検討し、書かれてある内容の読解を並行して進める。
- ・覚書・系譜史料類の所在調査をおこない、そのなかから長篠合戦に触れた記事を抽出、データベース化する。そのうえで内容分析も並行して進める。また、長篠合戦以外の合戦関係記事についてもこの機会に抽出、分類して、データベース化をおこなうことにより、歴史情報資源としての蓄積をおこなう。
- ・長篠合戦関係文書を収集し、その内容解析をおこなうことにより、合戦前後のできごとの時系列化と、合戦に関わった武士たちの所在・布陣地について、地理的情報を把握する。
- ・全国に所在する長篠合戦図屏風・合戦図の原本調査をおこない、必要に応じて高精細デジタルカメラで撮影する。そのうえで原本調査・撮影画像による解析を進め、屏風の成立・伝来などの史料学的検討をするとともに、文献史料と画像史料を結びつけて検討する。
- ・以上の基礎的史料収集とそれによる個別分析を総合し、長篠合戦についての全体像を史料にもとづき明らかにする。

10. 研究成果の公開計画

収集した史料（主に文献史料中心）の活字刊行（『大日本史料』第十編の一冊として、2019年度に予定）。

11. 共同研究員にもとめる役割

長篠合戦を文献・画像・遺物の各側面から立体的に明らかにするため、それぞれの専門的知識を活かして共同の調査・研究に参加する。